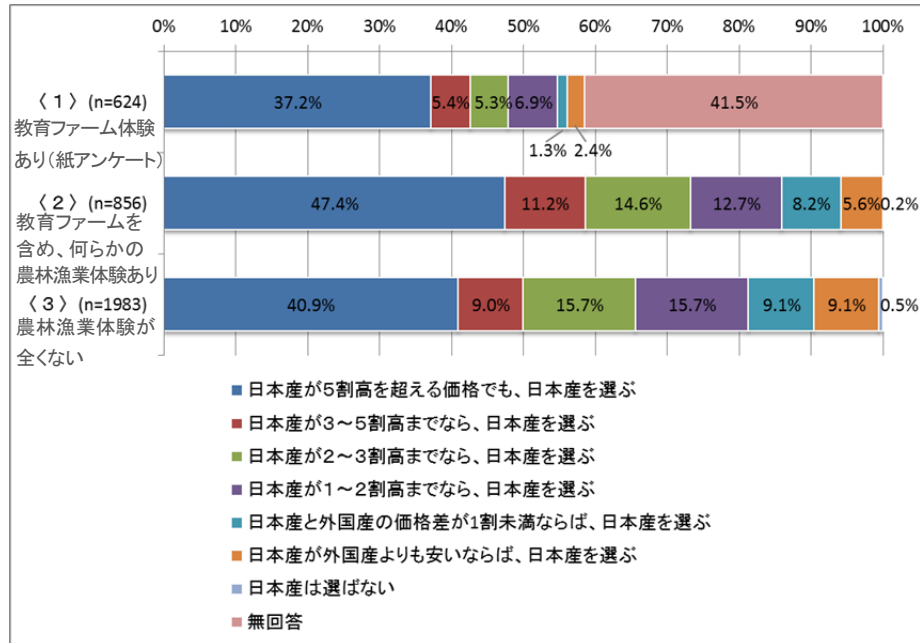


Q13. 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について

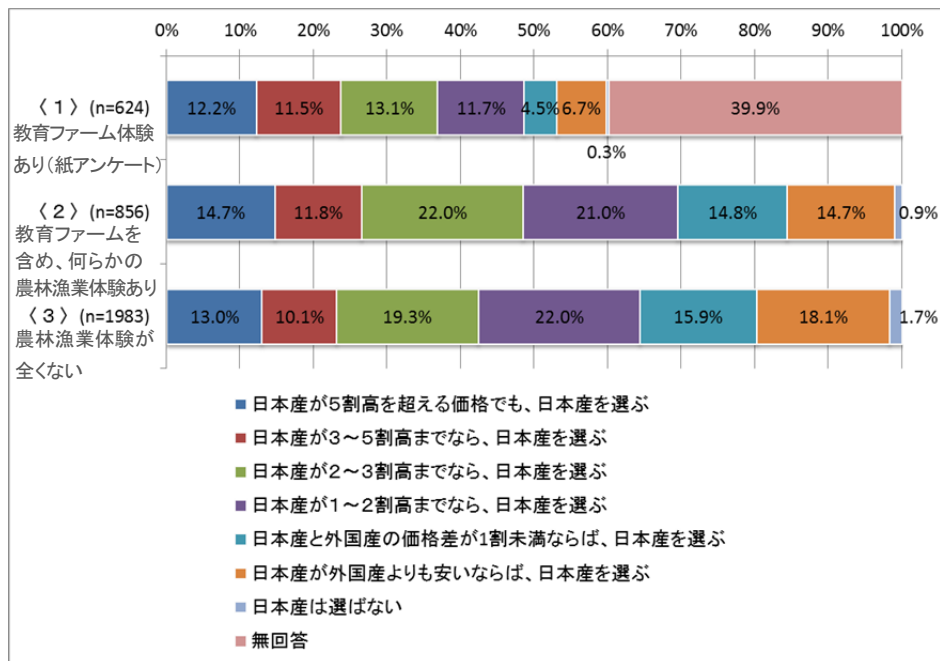
【米】

- どのグループでも「日本産が 5 割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多い。



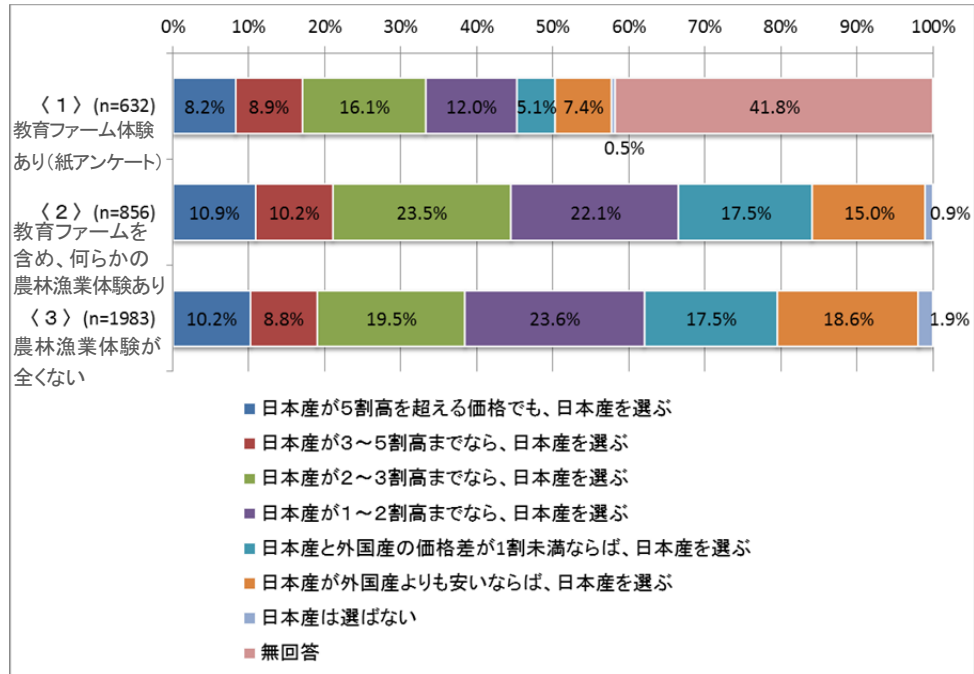
【肉類（牛肉や豚肉など）】

- グループ<3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多いが、グループ<1><2>では「日本産が2～3割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が最も多くなっていた。



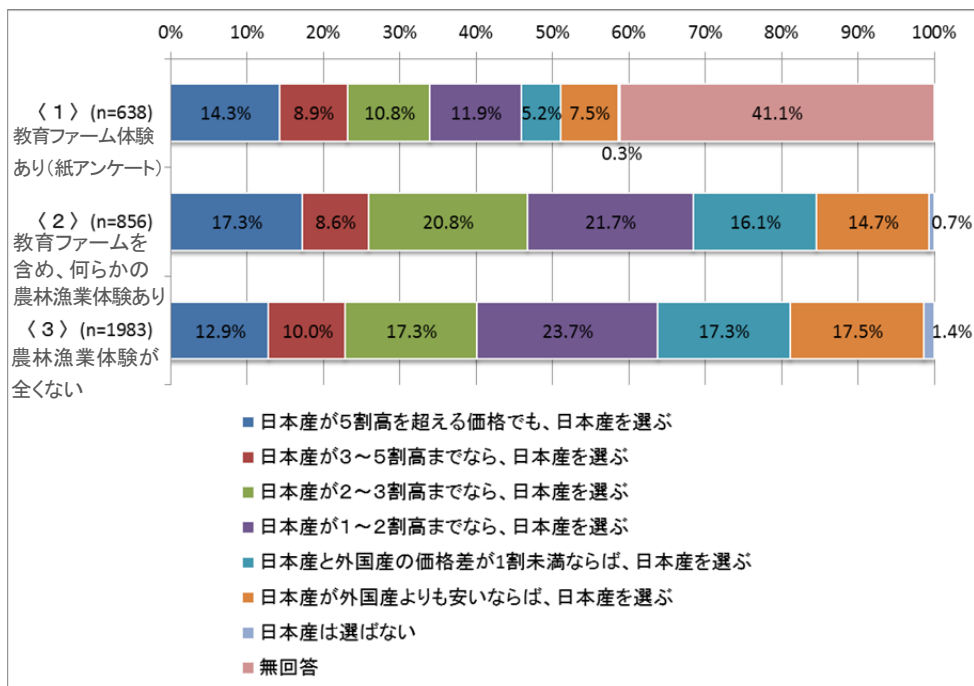
【魚介類（サケ、タコなど）】

- グループ<1><2>で「日本産が2～3割高までなら、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多く、グループ<3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が最も多くなっていた。



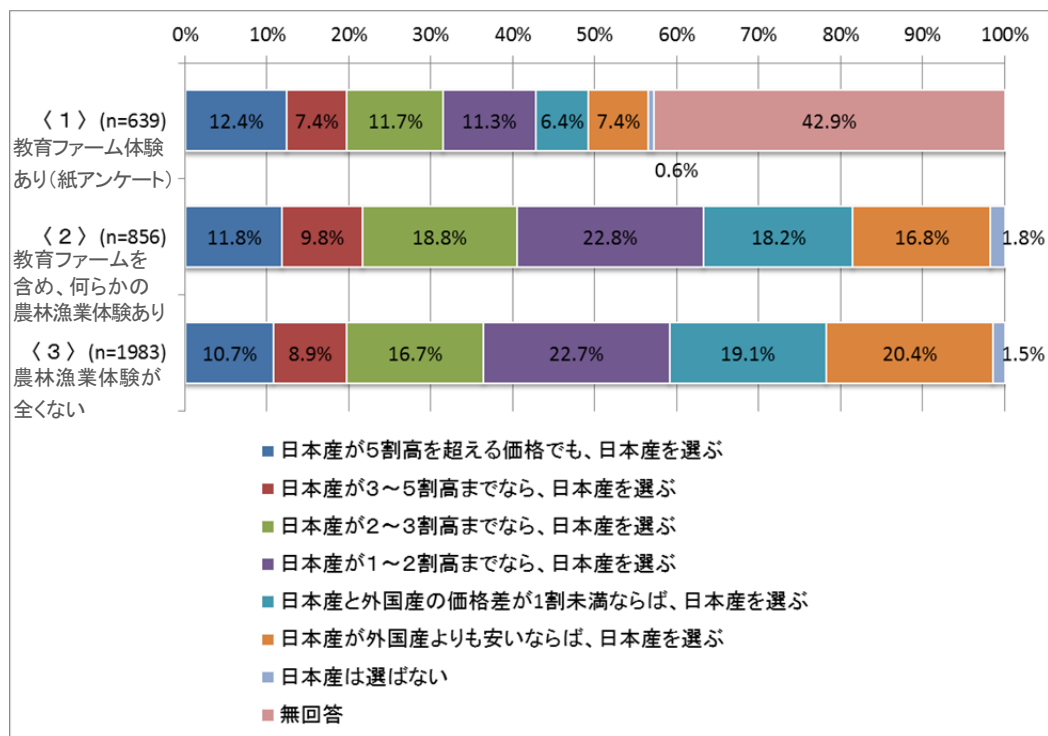
【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

- グループ<1>では「日本産が5割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多かったのに対し、グループ<2><3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」が多くなっていた。



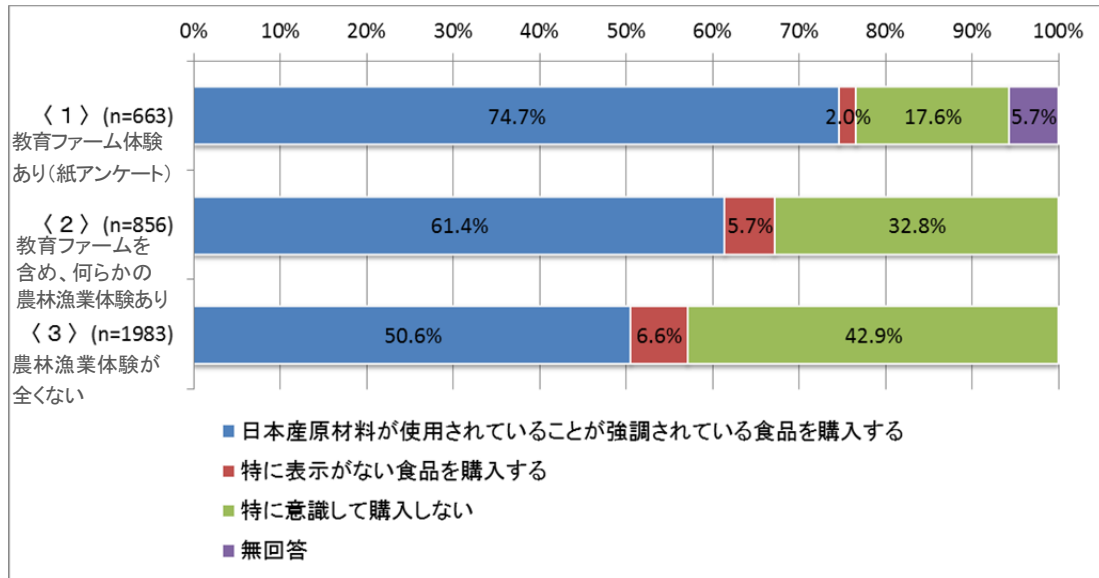
【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

- グループ<1>では「日本産が5割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多かったのに対し、グループ<2><3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が多くなっていた。



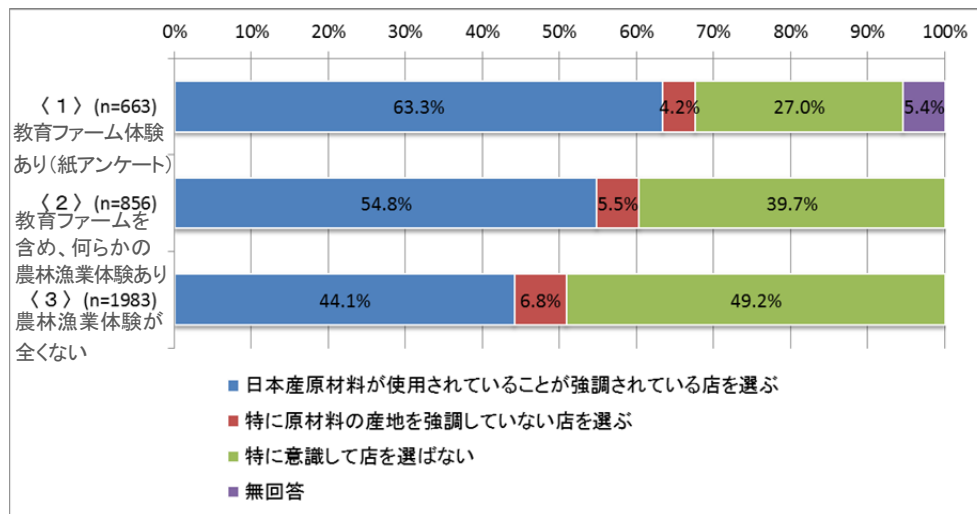
Q14. スーパーやコンビニでお弁当やお総菜などの調理済み食品を購入するとき、同じ価格で、日本産原材料が使用されていることが強調されているものと、特に表示のないもので迷った場合の購入について

- どのグループも過半数の回答者が「日本産原材料が使用されていることが強調されている食品を購入する」と回答しているものの、グループ<3>では、その他のグループに比べて、「特に意識しないで購入する」という回答者の割合が約10%程度高くなっていることが特徴的である。
- グループ<1>は、その他のグループより「日本産原材料が使用されていることが強調されている食品を購入する」と回答した者の割合が高かった。



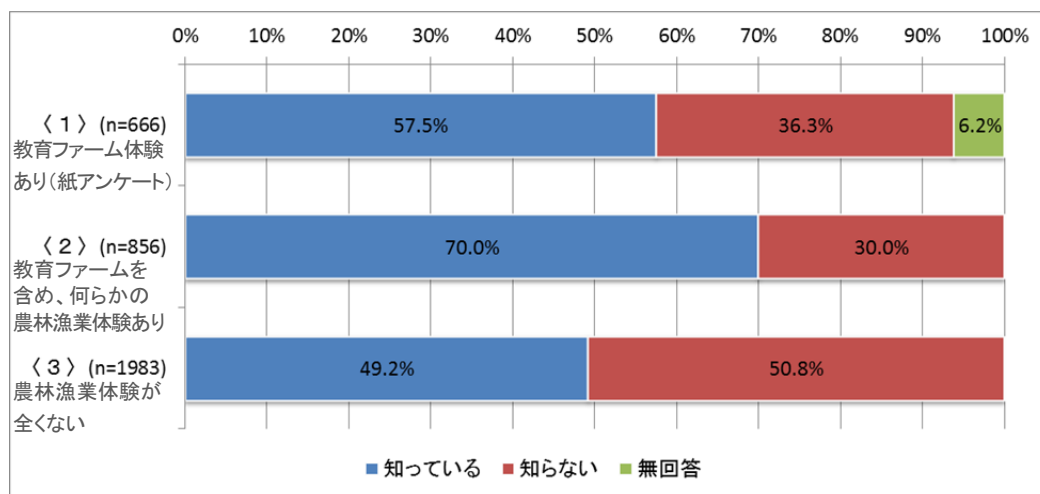
Q15. 外食をするときに、同じ価格帯で、日本産や日本国内の特定の地域の原材料が使用されていることが強調されている店と、特に原材料の産地を強調していない店で迷った場合の選択について

- 外食をするときに、同じ価格帯で、日本産や日本国内の特定の地域の原材料が使用されていることが強調されている店と、特に原材料の産地を強調していない店があった場合では、どのグループも約半数の回答者が「日本産原材料が使用されていることが強調されている店を選ぶ」と回答しているものの、農業体験の参加経験のないグループ<3>では、そのほかのグループに比べて、「特に意識して店を選ばない」という回答者の割合が10%以上高くなっていることが特徴である。
- グループ<1>は、その他のグループと比較すると、「日本産原材料が使用されていることが強調されている店を選ぶ」という回答がもっとも多い。



Q16. 現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで先進諸外国の中でも最低水準であることについて

- 現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで先進諸外国の中でも最低水準であることについては、どのグループでもほぼ半数の回答者が「知っている」と回答しているが、農業体験の参加経験のないグループ<3>では、「知らない」という回答者の割合がほかのグループに比べて10%以上多くなっていることが特徴である。
- 教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験があるグループ<2>が、その他のグループと比較すると、「知っている」という回答がもっとも多い。



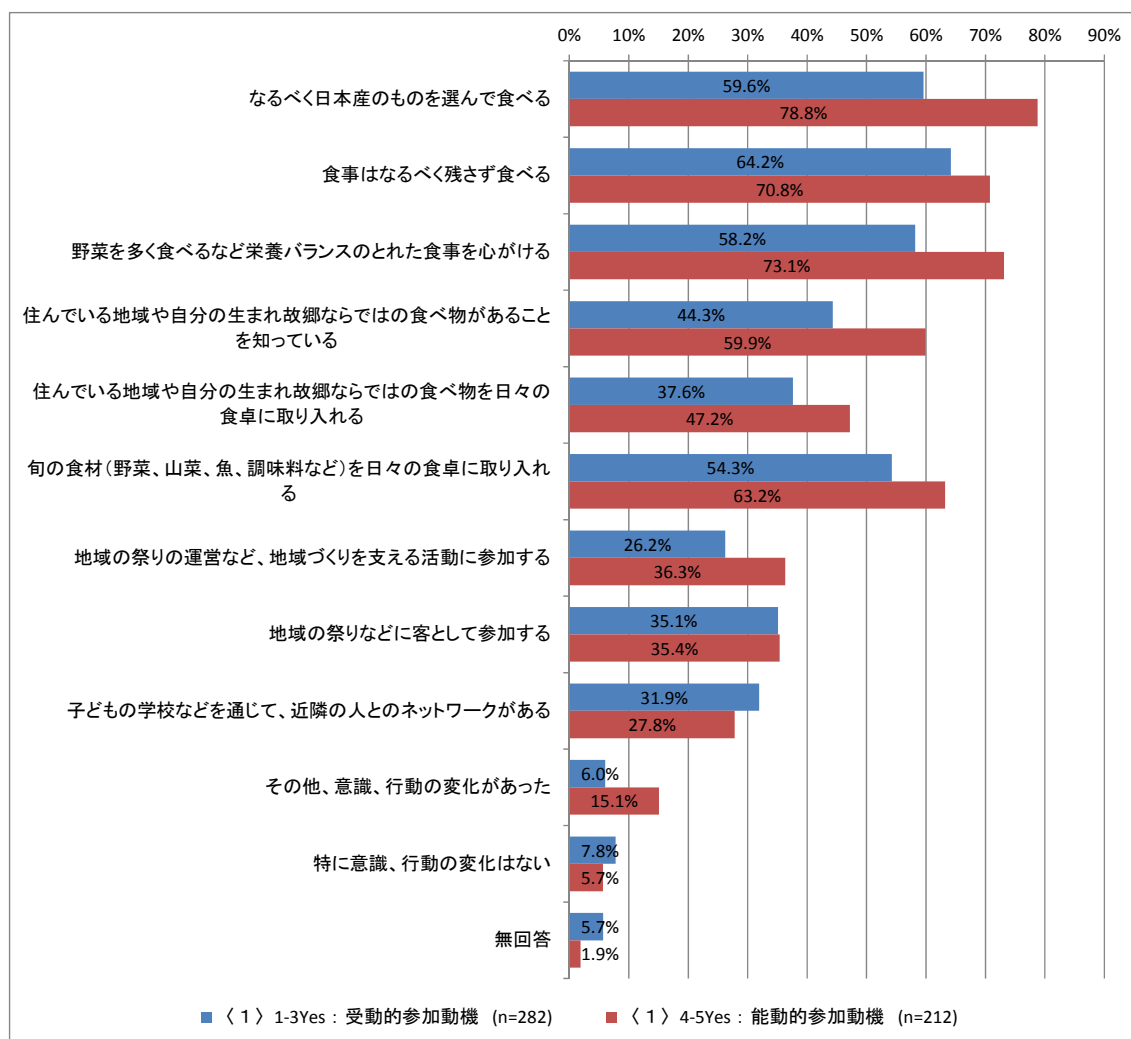
②クロス集計結果（教育ファーム体験の効果）

Q9×Q5.

農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（参加動機別）

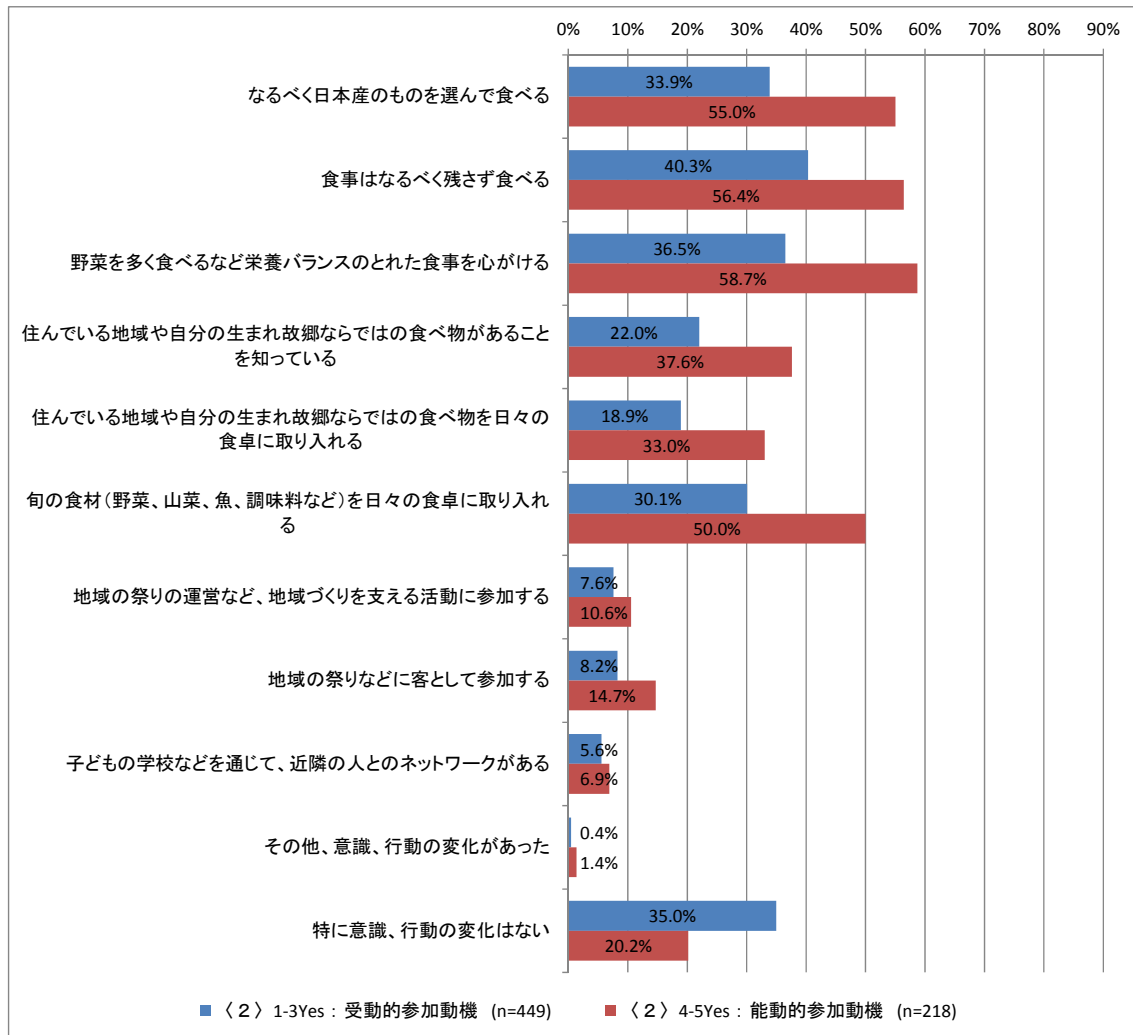
- グループ<1><2>どちらも、受動的参加動機よりも能動的参加動機の方が、体験による効果がより高い傾向がある。

〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）



- ・受動的参加動機＝「特に関心はなかったが、友人・知人などに誘われたから」「会社や地域などの行事で参加せざるを得なかったから」「子供が参加したから」と回答した人の合計
- ・能動的参加動機＝「農林水産業に関心があったから」「日頃から国産の米や野菜などを食べていて、その生産現場が知りたかったから」と回答した人の合計

〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり

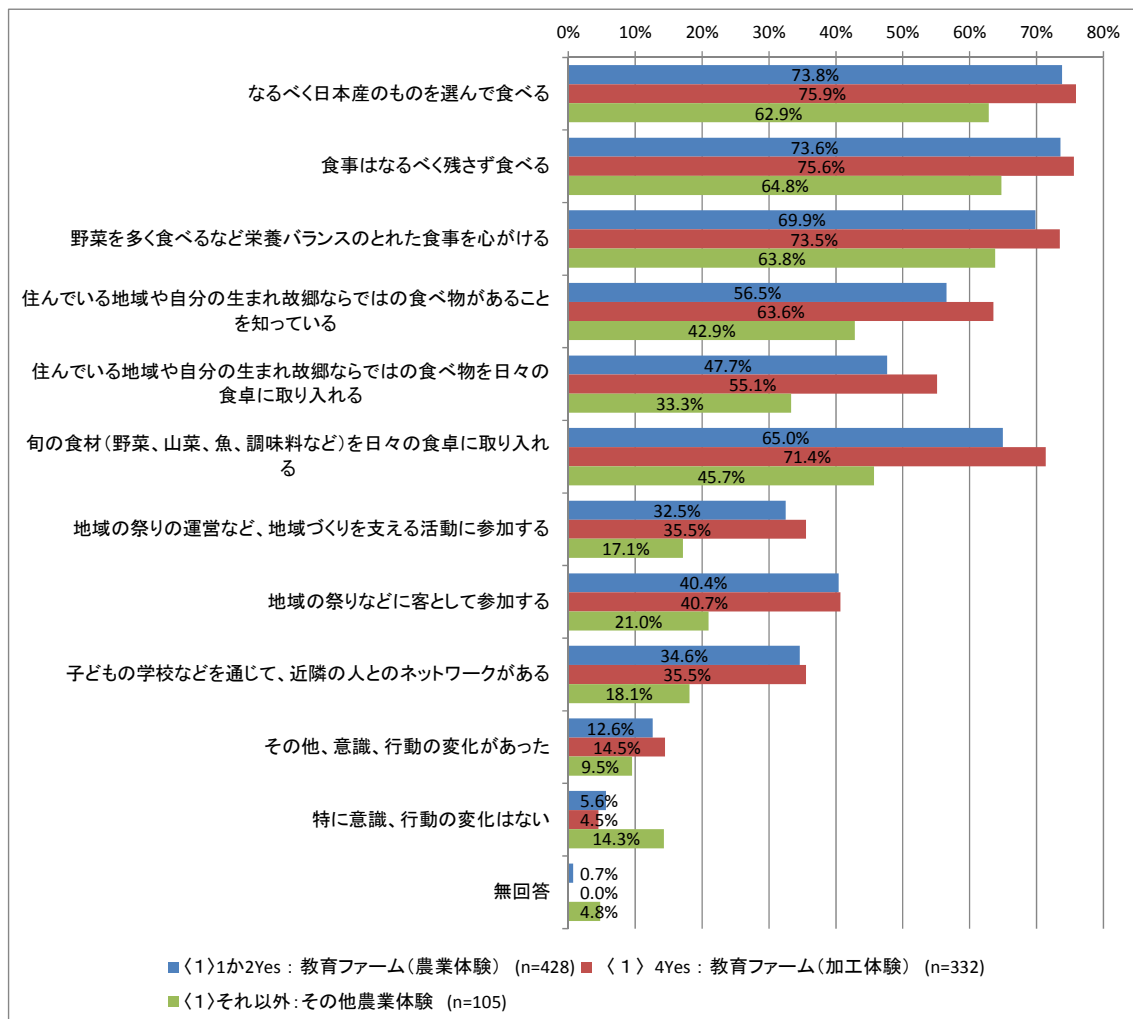


Q9×Q6.

農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）

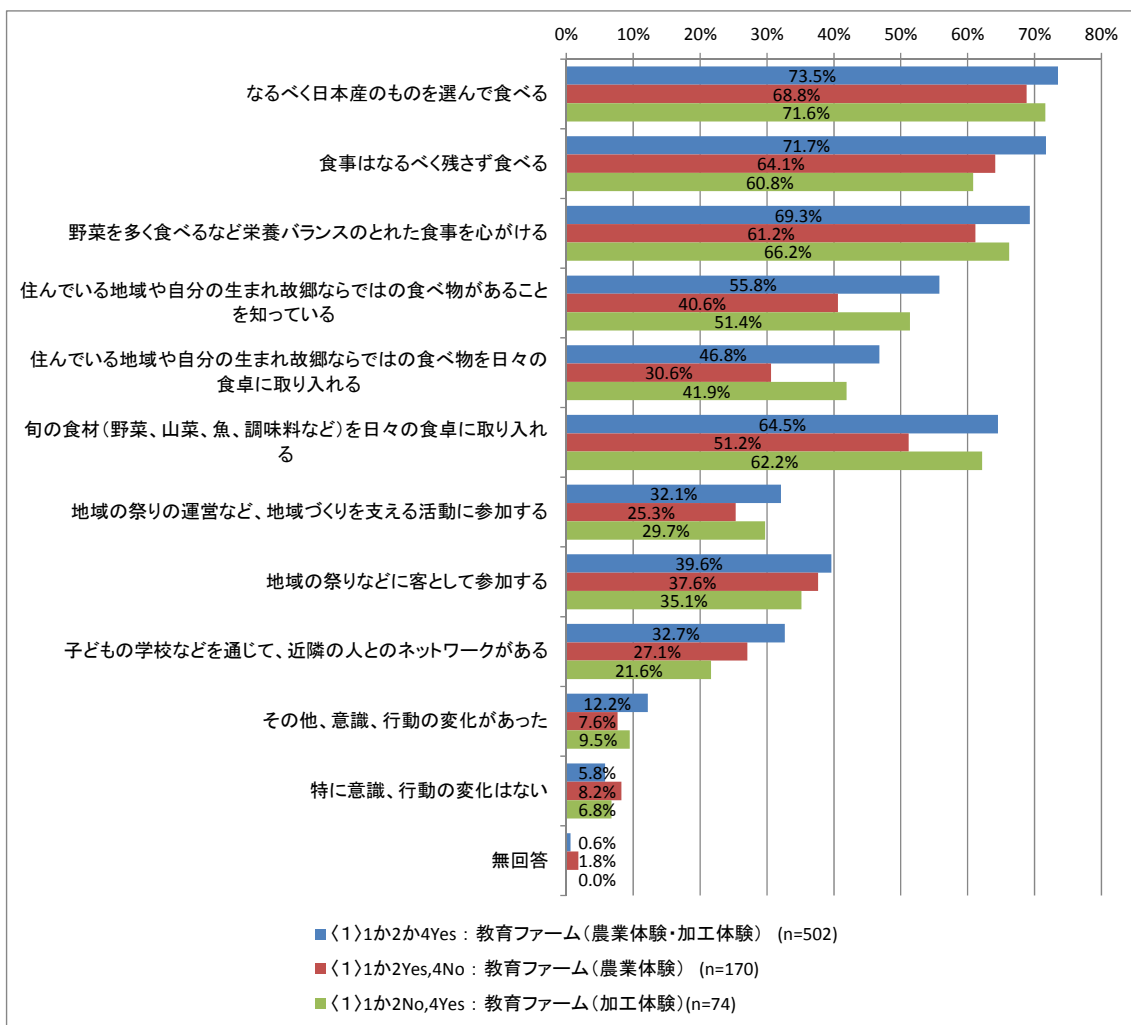
- グループ<1><2>どちらも、教育ファーム体験の方が、その他の農業体験よりも体験による効果が高い傾向がある。
- 教育ファーム体験のうちでも、加工体験の方が、より体験効果が高い傾向がある。なお、加工体験をした人の 77.7%が農業体験もしており、二つを同時に経験することにより、より高い効果があると考えられる。

〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）

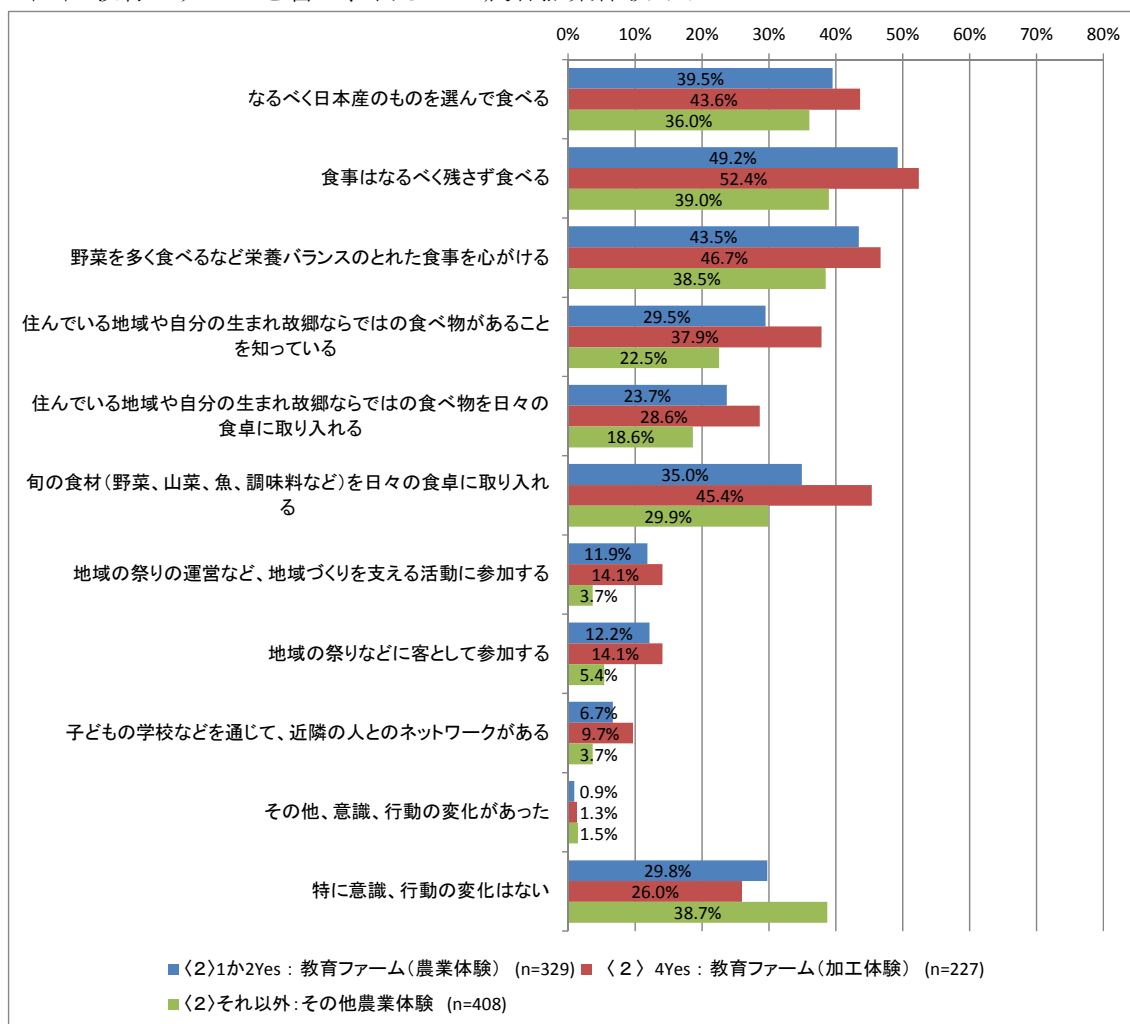


- ・教育ファーム（農業体験）＝「生産者と交流しながら田植え・稲刈り・野菜収穫などの体験」「体験農園・市民農園（農業者の指導あり）」のいずれかを回答した人の合計
- ・教育ファーム（加工体験）＝「収穫物を使った食・加工体験（餅つき、蕎麦打ち、炊飯、汁物作り、味噌作り等）」と回答した人の数
- ・その他農業体験＝上記のいずれも回答しておらず、「家庭菜園・市民農園（農業者の指導なし）」「観光農園等（果樹園等）での収穫体験」「その他の農林漁業体験」のいずれかを回答した人の合計

※「教育ファーム（加工体験）」があると回答した人のうち、77.7%が「教育ファーム（農業体験）」があると回答



〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり



※「教育ファーム（加工体験）」があると回答した人のうち、47.6%が「教育ファーム（農業体験）」があると回答

